

ちようしぐち ししまい
銚子口の獅子舞

大字銚子口の香取神社境内で行なわれる獅子舞は、日本無双角兵衛獅子と言われ、元禄十年七月に越谷市下間久里から伝わった獅子舞で、天下泰平・五穀豊穰・家内安全を祈願する舞である。

毎年一月二十三日・七月十五日・十月二十三日に行なわれる（最近はこの日に近い日曜日に行なわれている）。

現在は、香取神社の境内に万灯を立てて獅子舞を行なっているが、かつては村内（銚子口村）を廻り農家の庭先で舞っていた。村廻りは昭和四十五年ごろまで行なっていた。村廻りとは銚子口の各家々を廻り庭先きや家の中で一曲ずつ舞うもので、当日は朝六時ごろから始まり夜中の十二時ごろまで舞い廻る。それでも地区内の約半数を廻り終る程度で残りは翌年廻る習慣であった。

村廻りを中止してからは、村境（大字境）で獅子舞をするようになった。これを辻切りという。

獅子は、太夫獅子・中獅子・小獅子の三頭で、昔は氏子の相続人でなければ獅子役の資格がなかった。十八歳になると若衆仲間に入って獅子舞の練習をする。希望によつて、当日獅子舞を行なうようになっていた。戦前までは三十人位の人が受け継いでいたが、今は笛の吹ける人が三人位、すべての舞ができる人が六人である。

獅子舞の構成は、太夫（獅子の親方）を先頭に天狗・小獅子・中獅子・太夫獅子・太鼓・笛の順である。村廻りは右廻りでまず香取神社で「デハの舞」を舞ってから「道中流し」で村内を廻った。

獅子舞の役は本田組・水角組・本村組・下組が毎年順番で年当番になり、各組では全戸が参加して、祭りの準備から役割・費用も負担して獅子舞を行なう伝統が引き継がれている。

獅子舞の曲目は(1)天狗の舞 (2)小獅子の舞 (3)中獅子の舞 (4)太夫の舞 (5)千島の舞 (6)ヨツアゲの舞 (7)四方固めの舞 (8)ヒョウシオカザキの舞 (9)サンキリの舞 (10)鈿女うぬめの舞 (11)弓の舞 (12)三番神楽さんばの十二種類がある。

現在、この獅子舞の伝承者・後継者は十六人である。

初出「広報かすかべ 昭和五十三年一月」かすかべの歴史余話